



みんなで創るももたろうの劇

ももたろうの劇をするため、準備を進めています。大きな桃やみんなが乗る船、鬼ヶ島の門等みんなが協力しながら大道具を作っています。また、個々の役に必要な被り物や衣装等を作り、より本物らしくすることによって、なりきる楽しさにつなげられるようにしています。

「おうちの人に見てもらおうときって、遊戯室でやるんだよね？じゃあ、遊戯室でやってみようよ。」みんなで広い遊戯室でももたろうの劇をやってみることにしました。「桃から赤ちゃんが出たときには、おじいさんやおばあさんはうわあ！」って大きな声で驚いた方がいいよ。自分の出番でない友達が教えてくれました。おじいさん、おばあさん役の子は小さくうなずき、両手を広げ、片足を上げながら、「うわあびっくり！！」と動きをつけて演じました。「すごい！それの方がいいよ！」とみんなで拍手しました。これがみんなで創ることだと思います。自分のセリフは自分で考えるのは当然ですが、どうしたらもっとお話が分かりやすいのか、見ている人に楽しんでもらえるのかをみんなで考えることに大切にしています。どういうセリフにしたらいいか思いつかずに考え込んでしまう子もいますが、そういうときこそ、たいよう組みんなの力で助け合いながら創っていこうと思います。

子供たちにとって、ももたろうの劇ごっこは遊びなのです。友達のセリフや動きを見ながら友達同士で笑いながら進めています。一方で、役同士で言葉のやりとりをするときには、いつものように顔を見合わせたり、その子に聞こえるように話したりします。しかし、これは劇なのです。見ている相手があります。いくら自分たちが分かっていても見ている人に伝わらなければ仕方ありません。相手を意識することって人と関わる上でとても必要なことだと思います。恥ずかしいかもしれないけど、緊張するかもしれないけど、その気持ちを味わいながら、乗り越えていくことが満足感や達成感につながっていくと思っています。



先生できたよ！早く早く！！

コマの紐は巻けるのにうまく回らないけど繰り返し挑戦している子がいました。その子は友達が回るコマを見て喜んでいますが、心の中は自分もあんな風に回したいと思っていたことでしょう。私もどうにか回るようになってほしいと思って、手を添えて一緒に回して感覚を掴めるようにしました。繰り返し挑戦する姿を見ていた友達も回ってほしいと思って、投げるタイミングを伝えるために、「ゆらゆらしゅだよ！」という魔法のコトバを使って応援したりしていました。それでも、なかなか回らず…。そして今週、とうとう回ったのです！！不思議なもので回る雰囲気があったのです。本人の当然喜んでいましたが、周りにいた子供たちが、「先生できたよ！早く早く！」と私を呼びに来たのです。その勢いのすさまじいこと。本人同様の喜び様に何と温かい気持ちをもった子たちなのだろうと私の心も温かくなりました。それは、ずっと一緒に遊んできたことで、その子の気持ちに気付いていたからこそその喜びだったのでしょう。友達の気持ちに気付いて、寄り添い、認め合う姿。子供たちのかけがえのないつながりが、この場面を創り出していました。

